

第二十七回施設職員交流

バレーボール大会

宮下佑士郎

今年も二年振りにバレーボール大会がありました。キャプテンである宮下が選手宣誓に選ばれ、宣誓をおこないました。台詞がとんでしまったことはこの話にしておきます。

一試合目は中野学園様との対決。フルセットの激闘を制し、見事準決勝進出。二試合目となる準決勝は大久保学園様との対決。優勝候補というところもあり、一セットも取れませんでした。が、思っていたよりも点数をとることができ、健闘しました。三位決定戦は行う予定ではありませんでしたが、準決勝の健闘ぶりから急遽行うことに！対戦相手は菜の花会様でしたが、準決勝の疲れから一セットもとれず、結果四位となりました。来年こそは優勝目指します。

(みらい工房ひまわり 管理者)



新年会・成人式

宮内愛

今年もおめでたいこの日をお祝いできることができました。今回の成人の方は全員で六名です。成人式の準備で保護者様から文章をいただきスライドショーの作成をおこなっておりましたが涙無しでは作る事ができませんでした。幼少期の出来事からその時々思い、悔しかったこと、嬉しかったことなど鮮明に知れて嬉しく思います。同時に大切なご子息、ご令嬢をお預かりさせていただいているんだな、と見つめ直せる時間でした。

法人全体でお祝いできなくなって早三年。他事業所の利用者様と関われる場が少なくなりとても寂しいですが、またみんなでお祝いできる日を楽しみにしております。

(はーとやのパン 支援員)



みらい工房だいち
海保 美羽様(欠席)
内倉 優香様
安井 良太様
塚本 峰登様



みらい工房
おおぞら
小笠原 晶様



はーとやのパン
石垣 千拓様

行事予定

- 八月 ★おたのしみランチデー 夏祭り
- 九月 ★ソフトボール大会
- 一〇月 ★手をつなぐスポーツ大会の集い
- 十二月 ★クリスマス会
- 一月 ★成人式・新年会
- 二月 ★千葉市ゆうあいびつく 駅伝マラソン大会

感染症状況により参加の見合わせ、変更等あるかと思いますが、お知らせとさせていただきます。

編集後記
新年が明けてあっという間に春に差し掛かる頃になりました。私は広報委員として三年勤めておりますがこの時期(特に)成人式の編集をするのが一番好きです。成人の皆様におめでとうございます。大切な時間を共に過ごせて嬉しく思います。今年もどうぞよろしくお願ひします。

(広報委員 宮内)

みらい通信

障害者基幹相談支援センター

はじめました！

丸 晶

今年度当初、ある関係者から緑区の障害者基幹相談支援センターが公募されるので、みらい工房で挑戦してみようかとお誘いを受け、理事長に相談したところ、「社会福祉法人として、もっと地域貢献するためにも受託できるような頑張っている」と背中を押していただきました。

ただし、障害者基幹相談支援センターは委託事業ですので「やりたいところは誰でもできる」ものではなく、各区に「一か所だけ設置されるもので、それをみらい工房に任せると千葉市から認めてもらわなければなりません。

そのために膨大な申請書類を作成し、物件や駐車場さらには職員の確保も行わなければならないなど一筋縄にはいかないものでした。

それでも地域・関係者の皆様や法人職員の協力をいただき、無事に千葉市から委託をいただくことができました(令和四年十月一日事業スタート)。またこれらのご協力に加え、みらい工房が千葉市に根を張り地道に

第二十六号 令和五年三月発行
発行元 社会福祉法人みらい工房広報委員会
発行責任者 平井晋也
住所 千葉市中央区生実町一八二番地一
電話番号 〇四三(四八八)四六四九

利用者さんの支援を行ってきたことも評価されたのではないかと思っています。その意味では、みらい工房の利用者さん、ご家族の皆さんにも感謝しています。

ちなみに物件はJR鎌取駅から徒歩七、八分の場所を確保することができ、配置職員については、法人からの異動者に加え、新たに経験豊富な二名の職員を採用しスタートすることができました。

みらい工房は「地域と共にみんなの未来を創造する」を法人理念として各事業所で福祉サービスの提供を行っています。この理念や法人の歴史に恥じないよう、緑区において障害者基幹相談支援センターの役割を果たし地域貢献するために邁進していこうと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

千葉市障害者基幹相談支援センターは地域の中核機関として地域福祉向上のため以下のような役割を果たすことを求められています。

(地域生活支援センター 課長)

千葉市障害者基幹相談支援センター



(1) 一般的・総合的・専門的な相談支援

ワントップの相談窓口として、様々な障害の種別や各種のニーズに対応できる相談支援を実施します。

(2) 地域の相談支援体制の強化の取組

個別のケース対応について所管区内の相談支援事業所からの相談に応じ、専門的な指導、助言を行うほか、支援が困難なケースに対しては協働して支援にあたります。定期的に事例検討会や研修会を開催し、地域の相談員の人材育成の支援を行います。児童や高齢など障害福祉分野以外の支援者の皆さんとの連携強化にも取組みます。

(3) 地域移行・地域定着の促進の取組

病院や施設などで長年暮らしている方たちがグループホームや一人暮らし、家族との生活を始めることを支援します。また、その方たちの生活が安定して継続できるように支援します。

(4) 地域自立支援協議会の運営

障害者が住みなれた地域でその人らしく暮らしていけるような体制作りのための定期的な協議の場である地域自立支援協議会の運営を行います。

(5) 権利擁護・虐待の防止

成年後見制度の利用支援や障害があるご本人の意思決定支援などを行います。また、虐待に至らないように、必要な福祉サービスの導入やご家族への支援を行います。

(6) 障害者相談支援に関する各種情報の収集、集約、発信

地域の相談員が業務に活用できるよう地域における様々な支援機関の情報の収集、集約、発信を行います。

保護者便り



みらい工房さんと共に...

森川 久仁江

息子の祐暉は現在二十一歳、みらい工房の利用を開始して十二年、開所日は毎日通所しています。市原特別支援学校卒業後、みらい工房だいち生活介護リサイクル班でベトボトルのリサイクル作業を行っています。

平成二十三年みらい工房の事業が開始した時に、他施設の日中一時支援や放課後等デイサービスを利用していましたが、自宅に近い地域の施設で過ごさせたいという思いから早速問い合わせをしました。しかし、息子が通う市原特別支援学校への送迎は実施されておらず、利用は見合わせていました。その後、小学部四年生の時に送迎が開始となった為利用を開始し、気付けば毎日の利用になっていました。みらい工房の事業展開に伴い、利用先は「みらい工房」↓「みらい工房たんぼルーム」↓「みらい工房だいち」へと変わり、現在に至っています。

中学部三年時には、下肢の手術とリハビリで三か月以上入院していたので、その間みらい工房の利用はお休みしていました。退院後の利用受け入れを心配していましたが、以前と同様に受け入れをしていただき、とても助かりました。本人も元の生活に戻れて安心したと思います。高等部二年生、三年生時の産業現場実習は、みらい工房をはじめ、数か所の施設で行いました。長期休みは他施設も利用していたので、どこでも順応できると思っていました。が、三年時



の前期実習で他施設を利用した際に、水分を取らず、排尿もなく、ストレスからか顔にひきつり痙攣が起きてしまいました。嫌だと思ふ気持ちやストレスを感じることも心の成長の過程で必要だと思いますが、卒業後の進路はストレスを感じない環境からスタートしたいと考え、みらい工房の生活介護の利用を希望していました。開所日全ての受け入れは難しく、他施設との併用も検討しなければならぬ状況でした。しかし、卒業の時期が「みらい工房おぞら」の開所と重なったこともあり、みらい工房だいちの放課後等デイサービス利用から生活介護へと移行することが出来ました。

祐暉は話すことが出来ないのですが、気持ちを表情や仕草から感じるしかありません。また、歩行は不安定で排泄はリハビリパンツ使用の上トイレット指導、更衣は要介助、食事は見守り等、とてもお世話をおかけしています。食べることが好きで食欲旺盛な為体重は一〇〇キロを超えています。睡眠リズムも不安定で、一睡もせずにご利用することも度々あり、職員の皆様には必要以上に苦勞様をおかけしていると思います。その他、母の送り出しでは送迎者の乗車を拒否するので、自家送迎しています。その為、日に

よって自家送迎の受け入れと自宅へのお迎えと、柔軟に対応していただいております。そして、利用時はリハビリパンツから布パンツに替えて、排泄の自立を促していただいたり、散歩や運動等通して、体力維持やダイエットに繋がっていたり、かく等、個別支援をしていただきとても助かっています。

現在、コロナ禍で思うように外出できない中、日々のレクリエーション活動に加え、ハロウィン、クリスマス等の季節に応じた行事の実施や、ドイツニールランド等の外出、日々の楽しみを支援していただいていることにも感謝しています。また、特別支援学校在中は、学校という中で守られて生活しながらも、卒業後の事について不安を感じていましたが、毎日が無事に過ごせていることにとても安心しています。これからの目標は、まず体重を増やさないことです。出来る事ならダイエットしたいと思っています。そして日々過ごす中で、職員の皆さまや他の利用者様と楽しくコミュニケーションを交わしながら、楽しく活動や作業を継続することです。

ひとつ、心配な事といえば、親なきあと...一緒に考えていけたらと思います。

これからもよろしく願います。



●基幹相談支援センター職員●

管理者
相談員
丸 晶
(地域相談支援センター
みらい工房と兼務)

相談員
安田 歩美
(みらい工房おぞらより異動)

相談員
(新規採用)
由良 亮人

相談員
平井 亨
(地域相談支援センター
みらい工房と兼務)

相談員
(新規採用)
越川 麻紀



越川 麻紀
(こしかわ あき)

趣味はバレーボールです♪
皆さんの力になれるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願致します。



由良 亮人
(ゆら あきひと)

趣味はパン屋巡りです☆
生まれ育った千葉市の地域福祉に貢献できるよう頑張ります！



〒266-0031
千葉市緑区おゆみ野四丁目二二-六
第五初芝ビル 101・202
電話 043-312-4891
FAX 043-312-4892
midori-kan@mirai-kobo.or.jp

●事業所案内●

基幹相談支援センター
とは???

障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく暮らしていくために、日常生活や社会参加などに関するさまざまなご相談をお受けいたします。また、地域の方や関係機関と連携し、障害のある方を地域全体で支える地域づくりに取り組みます。

